

マッチプレーの競技運営・規則ガイダンス

(財)日本ゴルフ協会 規則委員会

※無断転載・頒布を禁ずる。

目次

I	マッチのプレーの競技運営	5
(1)	裁定権の所在	5
(2)	適用規則	6
	◇認められないローカルルール	6
(3)	タイの決定	7
(4)	欠場者の扱い	7
	◇予選競技で競技失格の違反をしていたことが分かった場合の処置例	7
(5)	マッチプレーの結果の表示例	8
II	審判員のいない競技	9
	紛議が起きた場合の委員会の対応	9
	◇ホールを終えた後に、紛議が生じる	9
	◇マッチの結果が決まった後に紛議が生じる	10
	◇相手からの誤報のため、クレームを出さなかった場合	10
III	審判員(レフェリー)	12
(1)	定義	12
(2)	審判員の心構え	12
(3)	審判員の態度	13
(4)	紛議が起きた場合の対応	13
(5)	審判員の裁定に関する事例	13
	◇特定の区域を修理地と宣言する審判員の権限	13
	◇プレイヤーの反則行為を、審判員が間違っ て承認した場合	14
	◇プレイヤーの反則を防止する審判員 の権限	14
	◇プレイヤーが審判員の裁定に不服な 場合	14
	◇最終ホールで審判員が判定を訂正し たため勝敗が逆転	15
	◇プレイヤーが次のプレーをした後 に審判員が裁定を覆す	15
	◇マッチプレーにおける審判員の 間違っ た裁定の訂正	16
(6)	審判員の必需品	17
(7)	審判員の任務の具体例	17

IV マッチプレーの規則	18
ハーフのホール(規則 2-2)	18
◇ホールアウトした後で罰を受け、そのホールがハーフとなる.....	18
◇お互いにホールをハーフとすることに合意.....	18
◇プレーヤーがドローミーの場合に相手がコンシードしたときのマッチの結果.....	19
◇相手の球を拾い上げたことがコンシードとなるか.....	20
◇コンシードされたのにパットしてホールアウトする.....	20
◇コンシードを辞退してパットしたらパットが外れた.....	21
紛議とクレーム (規則 2-5)	22
(1)クレームの要件.....	22
(2)クレームの時限.....	22
誤報を与える (規則 9-2)	23
◇自分のキャディー(またはパートナー)が相手に間違っただけの情報を与える..	23
◇打数についての任意の発言が、相手への誤報となる.....	24
◇何打を要したか相手に伝えることを拒む.....	24
◇間違っただけの情報を与えたため、相手がボールマーカを拾い上げる.....	24
◇スコアについて誤報を与えられたため、ハーフとなるべき球を拾い上げる.....	25
◇勝ちを得たホールのスコアが間違っていたことが、数ホールあとで分かる.....	25
不適合クラブ、超過クラブを持ち運んだ場合の罰(規則 4-1、規則 4-4)	26
◇1 番ホールを終えた時点で 15 本のクラブを持っていることが分かった.....	26
◇5 番ホールを終えた時点で 15 本のクラブを持っていることが分かった.....	26
マッチプレーでのプレーの中断 (規則 6-8A 例外)	27
◇降雨のため中断していたマッチの再開要求を拒否.....	27
ラウンド前やラウンド間の練習 (規則 7-1)	28
◇予選ラウンドのあと、競技の行われているコース上で練習を行っていた競技者が同日に行われるプレーオフに引き続いて参加する.....	28
ラウンド中の練習 (規則 7-2)	29
◇結果決定後にプレーを続けても練習ストロークとはならない.....	29
◇「そのホールのプレーを続けた」の解釈.....	29
プレーの順番 (規則 10)	30
◇紛議持ち越しの場合の、次のホールのオーナーの決め方.....	30
◇2 人とも救済を受けるときの打順.....	30
◇プレーの順番を間違えた相手に再プレーするように要求したが、自分がプレーしたあとで撤回.....	31

ティーインググラウンドの外からプレー (規則 11-4)	32
◇相手が再プレーを要求したときの順番.....	32
◇ティー区域外からプレーした球がアウトオブバウンズとなったが、打ち直しを求められなかった場合	32
誤球のプレー (規則 15-3)	33
◇ホールをコンシードしたあとで、相手に誤球のプレーがあったことが分かる	33
◇ホールの勝ちを得たがプレーヤーに誤球のプレーがあったことが次のホールで分かり、相手は前のホールの勝ちを主張.....	34
事例	35
◇相手のキャディーが、偶々プレーヤーの球を踏みつけ、動かす	35
ストロークした球が相手サイドに当たる (規則 19-3)	36
ストロークした球が止まっている他の球に当たる (規則 19-5A).....	36
誤所からのプレー (規則 20-7B)	36
紛議と裁定 (規則 34).....	37
◇予選ラウンドのスコア誤記がマッチプレーの始まったあとで発覚.....	37
◇マッチプレーに進んでいたプレーヤーに予選ラウンドでスコア誤記があり、競技失格となった場合の善後措置	37

I マッチのプレーの競技運営

最近のマッチプレー競技における紛議の多くは、委員会の競技運営の不備が原因となっています。紛議のない、公正な競技を行うためには、事前に明確で詳細な競技規定を作成してプレーヤーに告知しておくことが重要です。

(1) 裁定権の所在

競技を行う際に、規則上の紛議に関して、誰が裁定を行う権限を持っているかを明確にしておくことは重要です。

ゴルフ規則では、裁定権は「委員会」にあるとしていますが、倶楽部競技では、支配人や、キャディーマスター、あるいは所属のプロゴルファーが裁定をしている場合があります。このような場合、これらの人が委員会によって裁定権を委譲されているかどうかについて明確に規定していなかったことが紛議を引き起こすことがあります。

例えば、競技中に紛議が生じ、キャディーマスターが裁定をしましたが、後にその裁定が間違っていたような場合、そのキャディーマスターに裁定権が委譲されていないとすると、委員会に全く関係のない人が裁定したことになり、その裁定は規則上委員会によってなされた裁定ということではなかった、という問題が生じてしまうのです。

このような紛議を避けるため、誰が委員会の裁定権を有しているのかを競技規定の中で規定しておくことを勧めます。

【競技規定文言例】

1. 委員会の裁定

この競技における委員会の有する裁定権は、キャディーマスター〇〇氏に委譲し、この者の裁定はこの競技においては最終とする。

(2) 適用規則

ゴルフゲームはゴルフ規則に基づいてプレーされます。したがって、ゴルフ規則が適用されることは言うまでもありませんが、その他に、ローカルルールや競技の条件が制定されている場合は、どの規則が適用されるのかを明確に告知しておかなければなりません。

【競技規定文言例】

1. ゴルフ規則

日本ゴルフ協会ゴルフ規則および当倶楽部スコアカードに掲載されているローカルルールを適用する。

1. ゴルフ規則

日本ゴルフ協会ゴルフ規則および別紙ローカルルールを適用する。

◇認められないローカルルール

ローカルルールはどのようなものを制定しても良いということではありません。ローカルルールとは地域的に異常な状態に対応するために作成されるルールであって、ゴルフ規則を修正するようなローカルルールの制定は認められません。認められないローカルルールを制定すると、紛議が起きたときに、規則に基づいて裁定することができなくなります。

【認められないローカルルールの例】

- 前進 4 打でプレーすること
- トラ杭(1 打の罰のもとに、横に持ってくる)
- パッティンググリーン上でパター以外のクラブの使用を禁止する

*認められないローカルルールを制定して競技を行った際に紛議が生じた場合、その紛議について日本ゴルフ協会が解釈を示すことはできません。そのようなローカルルールを制定した委員会が解釈を示すこととなります。

(3) タイの決定

順位にタイが生じた場合、どのように扱うかを前もって明確にしておかなければなりません。

- ① マッチプレー進出者を決めるための予選競技(ストロークプレー)でのタイ
予選競技でタイが出た場合、マッチプレーに進出できる人を決めなければなりません。タイの決定方法には、ホールバイホールのプレーオフを行うか、マッチングスコアカード方式を採用することを勧めます。
- ② マッチプレーで所定のホールを終えても勝敗が決着しない場合
勝敗が決まるまで正規のラウンドを延長することを明記しておかなければなりません。

* ハーフのマッチをストロークプレーで勝敗を決めることはできません。

(4) 欠場者の扱い

マッチプレー進出者を決めるための予選競技が終了してから、マッチプレー競技までの間に欠場者が出た場合に、どのようにするのかを明確に規定しておかなければなりません。

【競技規定文言例】

予選競技終了後、マッチプレーのスタート時刻および組合わせが発表された後は、予選競技での失格者が出たり、マッチプレーへの出場を辞退した者が出た場合であってもマッチプレーに進出する選手は追加しない。なお、この場合の対戦相手は1回戦不戦勝とする。

◇予選競技で競技失格の違反をしていたことが分かった場合の処置例

- ①予選競技終了後、当該プレーヤーの最初のマッチでティーオフする前に違反の事実が分かった場合
 - ・その競技者は競技失格とし、予選競技の成績により1名を繰り上げることにするが、次位者がいなかったり、次の1名にタイが生じていて1名を決定することができないときは、1回戦の対戦相手を不戦勝とする。
 - ・マッチが開始していた場合、組み合わせは変更とせず、対戦相手を不戦勝とする。
- ②規則 34-1b 例外に列記されている違反があった場合
 - ・違反が発覚した時点でマッチがすでに進行中の場合、相手の勝ちとする。
 - ・違反が発覚した時点がマッチを終えたあとで、次のマッチの間であったときは、直前のマッチの結果は、競技失格となったプレーヤーが勝っていた

としてもその結果は変更しないが、次のマッチについては相手を不戦勝とする。

③規則 34-1b 例外に列記されている以外の違反があった場合

・最初のマッチでティーオフした後はプレーヤーを競技失格としない。

(5) マッチプレーの結果の表示例

3 アップで 2 ホール残し・・・3 and 2

1 アップ・・・1up

22 ホール目で決着・・・22nd Hole

何らかの理由で相手が初めから対戦を放棄・・・不戦勝

相手に競技失格の違反があった場合・・・競技失格

相手がマッチの途中でマッチの勝ちを譲った場合・・・コンシード

II 審判員のいない競技

倶楽部競技ではマッチプレーに審判員を同行させない場合がほとんどでしょう。また紛議が起きた場合に、そのホールに委員会がすぐに行って裁定できるような運営がされていることもまれかと思えます。このような場合の紛議の多くはマッチの結果が決定した後、プレーヤーたちが倶楽部ハウスに戻ってきたときに生じます。

マッチプレーは1ホールごとの勝敗を決めて進んでいくゲームであり、紛議があった場合でも次のホールに行く前に解決しなければならないのが原則です。したがって、ストロークプレーのようにラウンド後に裁定をしても意味がないので、「クレームを出す」という考え方があるのです。

委員会は紛議が持ち込まれたときに、まず、時限内のクレームがあったかどうか、誤報があったのかどうかを確認した上で裁定をしなければなりません。

紛議が起きた場合の委員会の対応

①クレームが時限内に出されていない場合、マッチの結果は変わりません。

マッチの当事者から紛議の申し立てがあった場合、まず、クレームが正しく出されているかを確認しましょう。紛議が起きた場合に、次のティーショットをする前(最終ホールでは全員がパッティンググリーンを離れる前)にクレームが出されていないければ、委員会はそのクレームを取り上げることはできません。つまり、時限内にクレームが出されていないければ、たとえ違反があった場合でもマッチの状態はそのままとなります。

事例

◇ホールを終えた後に、紛議が生じる

Q 5番ホールでAはBが誤所からプレーしているのではないかと思いましたが、確信がなかったのでそのままプレーを続け、5番ホールはBの勝ちとなりました。6番ホールのティーショットをBが行なった後、Aは「5番ホールで誤所からのプレーをしたのではないか?誤所からのプレーをしていたとすると5番ホールは私の勝ちだ」とBに言いました。そこで、AとBは競技委員を呼ぶことにしました。

A この場合、Aは時限内にクレームを出していないので、Bが誤所からのプレーをしていたとしても、5番ホールがBの勝ちであるという結果は変わりません。

◇マッチの結果が決まった後に紛議が生じる

Q A と B のマッチは B が 1 アップで終了し、B が委員会にマッチの結果を報告しにいきました。すると、ギャラリーから B が 10 番ホールで、バンカー内の球をプレーするときにそのバンカー内にある木の葉を取り除いていたという事実が A に知らされました。A は委員会に紛議を申し立てました。委員会が A にその事実について知っているかと聞くと「確かに、木の葉を取り除いているのは見ていましたが、それが違反であることは分かりませんでした」と答えました。委員会はどうのように裁定すれば良いでしょうか？

A この場合、A は時限内にクレームを出していないので、B が 1 アップで勝ちという結果は変わりません。

*いずれの事例も、A は B の違反となる行為を見ていたのでクレームを出すことができたのに、クレームを時限内に出さなかったため、時限後のクレームは委員会は取り上げないのです。

②クレームが時限内に出されていなくても、委員会がクレームを取り上げる場合

クレームが時限内に出されていなくても、相手からの誤報があった場合、委員会は時限後のクレームであっても取り上げます。

【誤報とは】(詳細は規則 9-2 参照)

- * 相手が見ていないときに、自分が罰を受けたことを、その相手に告げなかった場合
- * 1 ホールのプレー中にそれまでのストローク数について間違っただけの情報を与えた場合
- * そのホールのストローク数について間違っただけの情報を与えた結果、そのホールの勝敗に影響を与えた場合

事例

◇相手からの誤報のため、クレームを出さなかった場合

質問 2 番ホールで A は林の中の自分の球を探しているときに、自分の球を蹴飛ばしてしまいました。このことを B は見ていませんでした。A は規則を知らなかったこともあり、そのまま球をプレーしていき、そのようなことがあったことを B に伝えませんでした。2 番ホールは A が 4、B が 5 で A の勝ちとなりました。その後、A は 1 アップでそのマッチに勝ちましたが、委員会に結果を報告する際に A が「実は 2 番ホールで、自分の

球を捜索中に蹴飛ばしてしまったが、規則違反となるのか」と言いました。この場合、委員会はどのように裁定すべきですか？

回答 B は時限内にクレームをしていませんが、それは、A が違反をしていることを見ておらず、また A から報告がなかったためであり、委員会は 2 番ホールは A の誤報により A の負けとし、結果、マッチは B の 1 アップの勝ちとなります。

Ⅲ 審判員(レフェリー)

(1) 定義

「**審判員**」とは事実問題を判定し**規則**を適用するためにプレーヤーに同行するよう**委員会**によって任命された人をいう。**審判員**は自分で直接目にしたり報告を受けたものも含めすべての**規則違反**について対応しなければならない。

審判員は(a)**旗竿**に付き添ったり、(b)**ホール**の近くに立ったり**ホール**の位置を示したり、(c)球を拾い上げたり球の位置をマークしたりするべきではない。

審判員は委員会より裁定をする権限を与えられています。審判員はすべての規則違反について対応しなければなりません。そのため、審判をする人は規則に精通していなければなりません。

(2) 審判員の心構え

審判員が同行する場合、プレーヤーが規則に違反するおそれのあるときは、事前にプレーヤーに注意すべきです。当然のことながら、このような規則に関するアドバイスはいずれのプレーヤーに対しても公平に行なわなければなりません。

また、相手が見ていないような場所でストロークが行われたり、規則に基づく処置が行なわれた場合、審判員はそのことを相手に教えてあげるべきです。

従って、審判員が同行する場合、原則としてクレームや誤報の問題は生じないわけで、またそのような問題を生じさせないようにしなければなりません。

なお、マッチプレーでは相手に再プレーを求めることができる規則があります。

規則 10-1c 違った順番でプレーした場合⇒相手に再プレーさせる権利

規則 11-4a ティーインググラウンドの外からプレーした場合
⇒相手に再プレーさせる権利

規則 19-3 相手に球が当たった場合に、再プレーする権利

このような場合、規則どおりにプレーしなかったことについて審判員は介入すべきではありません。ただし、その結果、プレーヤーが再プレーを要求できるかどうかについて審判員は確認すべきです。

例えば、相手が違った順番でプレーしようとしていることを事前に止める必要はありませんが、その後、再プレーを要求するのかどうかについてはプレーヤーに確かめるべきです。

(3) 審判員の態度

審判員が同行する競技の多くは高いレベルである場合が多く、選手にはかなりのプレッシャーがかかっていることを配慮しなければなりません。

したがって、高圧的な態度や、思いやりのない言動をしてはいけません。審判員は職務遂行にあたり、そのマッチが公正に行われるように、そして無用な紛議なしに選手が気持ちよくプレーできるように配慮しなければなりません。

また、必要もないのにプレーヤーに声をかけたりしないようにしなければなりません。

(4) 紛議が起きた場合の対応

審判員がプレーヤーから紛議の申し立てを受けたときは、そのマッチが次のホールのプレーをする前に解決をしなければなりません。マッチプレーはホールごとに勝ち負け(ときにはハーフ)を決定し、そのマッチの状態が以後のホールでの戦略を決めるうえで重要な意味を持ちますので、あるホールの結果を保留にしたまま、ゲームを続けることは望ましくないからです。

◇紛議の申し立てがあった場合、審判員は落ち着いて次のことを確認しましょう。

- ① 規則 2-4 に基づく有効なクレームであるかどうか
- ② 紛議の事実関係(誰が、何処で、何をしたか、そのときのプレーヤーの意図など)

◇裁定をするときには次のことに注意をしましょう。

- ① 裁定のために十分な時間が許されることを思い出してあわてないこと。
- ② 事実関係を正しく整理し、紛議の問題点を明確に理解すること。
- ③ 規則書・裁定集で確認をすること。
- ④ 関係プレーヤーに規則書・裁定集を見せながら説明すること。
- ⑤ 結論が出ない場合には委員会や他の審判員にも意見を聞くこと。

(5) 審判員の裁定に関する事例

◇特定の区域を修理地と宣言する審判員の権限

質問 マッチの審判員は、マッチの途中で、ある区域を修理地とする旨宣言することができますか。

回答 できます。

◇プレイヤーの反則行為を、審判員が間違っ
て承認した場合

質問 プレーヤーの反則行為を審判員が間違っ
て承認した場合、プレーヤーは
罰を免れますか。

回答 プレーヤーに罰はありません。規則 34-2
により、審判員の裁定はその裁
定が正しいかどうかにかかわらず最終となります。

◇プレイヤーの反則を防止する審判員の権限

質問 プレーヤーが反則を起こしそうな
のを見た場合、審判員はそのプレー
ヤーに警告して違反を防ぐことが
できますか。

回答 審判員はプレーヤーに警告する
ことができますがその義務はあり
ません。審判員がゴルフ規則に
ついて自主的に情報を提供する
場合は、プレーヤー全員に
対して平等に行うべきです。

◇プレイヤーが審判員の裁定に不服な場合

質問 マッチプレーで、プレーヤーが
審判員の裁定に不服な場合、プレー
ヤーは委員会の見解を求めるよう
に審判員に要求できますか。

回答 要求できません。審判員の裁定
の是非については、その審判員
の同意が得られた場合にだけ委
員会の見解を求めることができます。

◇最終ホールで審判員が判定を訂正したため勝敗が逆転

質問 マッチでプレーヤーA と B はオールスクエアで最終ホールをプレーしていました。ところが、そのパッティンググリーン上で問題が生じ、審判員は、B がその最終ホールで負けとなり、したがってマッチも負けとすべきところを、間違っA が最終ホールで負け、したがってマッチも負けと裁定しました。A も B もその裁定について異議を申し立てずにパッティンググリーンを離れましたが、後刻、マッチの結果が公表される前に審判員は自分の誤りに気づき、先刻の裁定を逆転し B が最終ホールで負け、したがってマッチの負けと改めました。審判員が裁定を覆したことは正当な措置といえますか。

回答 正当な措置といいます。マッチの結果は公表されておらず、またどちらのプレーヤーも次のストロークを行っていないので、審判員が裁定を逆転したことは正しい処置です(裁定 2-5/14、34-2/6、34-3/3、34-3/3.3 参照)。

◇プレーヤーが次のプレーをした後に審判員が裁定を覆す

質問 マッチプレーで、17 番ホールのパッティンググリーン上で紛議が発生し、審判員はプレーヤーA はそのホールの負けと間違っA と B はその裁定に異議を唱えることなく、パッティンググリーンを歩いて離れました。プレーヤーの両者が次のティーからプレーした後に、審判員は自分の誤りに気づき、裁定を覆して、B が 17 番ホールの負けであったと裁定しました。裁定を覆した審判員の行為は正しかったでしょうか。

回答 正しくありません。審判員が裁定を与えた後で、どちらかのプレーヤーがそのホールでストロークを行った場合(その後、そのホールではストロークが行われなかった状況では、どちらかのプレーヤーが次のティーインググラウンドからストロークを行った場合)、審判員は裁定を覆すことはできません。そのマッチの最終ホールの場合については裁定 34-2/5 参照。

プレーヤーがストロークを行う前(その後そのホールではストロークが行われなかったような状況では、どちらかのプレーヤーが次のティーインググラウンドからストロークを行う前)に審判員が誤りに気付いた場合、公正の理念(規則 1-4)にしたがって、審判員はその誤りを訂正しなければなりません。規則 34-2 は審判員の裁定は最終としていますが、審判員が了解しない限りプレーヤーは上訴権をもたないという意味ではその裁定は最終です。

◇マッチプレーにおける審判員の間違った裁定の訂正

質問 シングルマッチプレーにおいて、プレーヤーたちは審判員から裁定を受け、その審判員は間違っ​​てプレーヤーのうちの 1 人にそのホールの負けの罰を受けると告げました。両プレーヤーはそれぞれ自分の球を拾い上げ、次のティーへ歩いていきました。審判員はその後、間違っ​​た裁定に気がきました。審判員はその誤りを訂正すべきでしょうか。

回答 どちらのプレーヤーもまだ次のティーインググラウンドからプレーしていない場合(マッチの最終ホールではマッチの結果が正式に発表されていない場合)、公正の理念(規則 1-4)にしたがって、審判員はその誤りを訂正しなければなりません。審判員はプレーヤーたちにそれぞれ自分の球をリプレースして、適用される正しい裁定に基づいてそのホールのプレーを終えるように指示しなければなりません。どちらかのプレーヤーが次のティーインググラウンドからプレーしていた場合(マッチの最終ホールではマッチの結果が正式に発表されていた場合)には誤りを訂正するには遅すぎるため、そのホールの負けという裁定はそのまま有効としなければなりません。

(6) 審判員の必需品

審判員に従事する方は次のものを携帯しておくべきです。

ゴルフ規則書

ゴルフ規則裁定集

ローカルルール

スコアカード

筆記用具

ひも(境界や限界を判断するために使用します)

時計(球の搜索時間を計測するために使用します)

本部や他の審判員と連絡をとるための通信機器

(7) 審判員の任務の具体例

審判員が同行する場合の任務の具体例を挙げます。

① スタート前に行うべきこと

- 審判員の紹介
- 審判員が裁定権を有していること
- クレームは次のホールに行く前に申し立てること
- コンシードする場合は明確に相手に告げること
- クラブの本数と使用球を確認すること
- ティー区域内からプレーするかどうかの確認

② スタート後の職務

- 順番の決定
- 規則違反の防止のための観察
- 紛議の裁定
- 各ホール終了後にプレーヤーと共にマッチの状態(勝ち負け)の確認

【例】

大場選手 対 加藤選手

「このホール、大場選手の勝ち、12番ホール終わって大場選手の4アップ」

「このホール、大場選手の勝ち、12番ホール終わってオールスクエア」

「このホール、ハーフ、12番終わってオールスクエア」

「このホール、大場選手の勝ち、16番ホール終わって大場選手の2アップ、17番ホール、ドローとなりませう。」

「このホール、大場選手の勝ち、2 and 1 でこのマッチ大場選手の勝ち」

- コンシードの確認

*職務の詳細は「競技運営ガイダンス 第7章」を参照。

IV マッチプレーの規則

ハーフのホール(規則 2-2)

両者のスコアが同じであったホールはハーフとします。
プレーヤーの球がすでにホールに入っていて、相手がハーフとするのにと 1 ストロークを残していた場合、すでにホールアウトしていたプレーヤーがホールアウト後に罰を受けても、そのホールはハーフとします。

事例

◇ホールアウトした後で罰を受け、そのホールがハーフとなる

質問 マッチプレーで、プレーヤーA は 4 打でホールアウトしていました。B はまだ第 4 打目となるパットを残していて、もし B がそのパットを決めるとそのホールはハーフとなるという状況でした。そこで、A は B がパットをする前に、A が B にパッティングラインについてアドバイスをしました。この場合、A にアドバイス違反の罰がつくのでしょうか？

回答 A はアドバイスの違反としてそのホールの負けとなるところですが、規則 2-2 の規定によって、このホールはハーフとなります。

◇お互いにホールをハーフとすることに合意

質問 マッチの始まる前やマッチの間に、A と B はお互いに 1 ホールや複数のホールをコンシードすることに合意しました。そうすることで実際には短いマッチをプレーすることができます。A と B がそうした合意が認められないことを知っていた場合、規則 1-3 に基づき競技失格の罰を受けることになりますか。

回答 競技失格となります。規則 2-4 はプレーヤーがプレーする前であってもホールをコンシードすることを認めているものの、プレーヤー間でお互いに複数のホールをコンシードすることに合意することは、正規のラウンドをプレーするという規則 2-1 の原則を歪めることになる行き過ぎた行為です。したがって、そのような合意は「規則を排除することに合意する」ことに相当します。

マッチの勝者(規則 2-3)

一方のプレーヤーが残りのホール数よりも多く勝ち越した時に、マッチはそのプレーヤーの勝ちとなります。

正規のラウンドを終えてもタイの場合には、委員会はマッチの勝ちが決まるまでその正規のラウンドを延長することができます。

◇プレーヤーがドローミーの場合に相手がコンシードしたときのマッチの結果

質問 A と B のマッチプレーで A が最終ホールを 1 アップでプレーしていました。次の状況で B の行動を考えたとき A は 1 ホールアップでの勝ちなのか、2 ホールアップでの勝ちなのか。

- (i) B は第 3 打でパッティンググリーンに乗せたがホールから遠い位置だった。A は第 3 打をグリーンエッジからプレーし、球はホールから約 1 フィートのところに止まった。B は歩み寄って A に握手をした。
- (ii) B の第 2 打目はパッティンググリーン上に乗った。A は第 3 打でホールに入れたので、B は A に握手をした。
- (iii) A は第 2 打でフェアウェイからパッティンググリーンの乗せた。B の第 2 打はパッティンググリーンをはずれバンカーに入った。B は直ちに A に歩みより握手をした。
- (iv) B は第 6 打でパッティンググリーンの乗せたがホールから遠い位置だった。A は第 3 打目をグリーンエッジから行い球はホールから約 1 フィートのところに止まった。B は歩み寄って A に握手をした。
- (v) A の第 2 打目はパッティンググリーン上にあった。B は第 3 打でフェアウェイからパッティンググリーンの乗せ、球はホールから 1 フィートに所に止まった。B は A に歩みより握手をした。

回答 プレーヤー同士の握手はお互いの次のストロークをコンシードすることに合意したものと見なされます。従って(i)-(iii)の状況では A は 1 ホールの勝ちとなります。(iv)と(v)の状況では A は最終ホールの勝ちで、マッチは 2 ホールの勝ちとなります。

コンシード (規則 2-4)

(1) マッチのコンシード

プレーヤーはマッチを始める前であっても、終える前であってもいつでもそのマッチの勝ちを相手に譲ることができます。

(2) ホールのコンシード

プレーヤーは 1 ホールのプレーを始める前であっても、終える前であってもいつでもそのホールの勝ちを相手に譲ることができます。

(3) ストロークのコンシード

プレーヤーは相手の球が止まっていれば、いつでも相手の次のストロークを免除することができます。この場合、相手は次のストロークでホールに入ったものとみなされます。

* コンシードは辞退することも取り下げることができません。

事例

◇相手の球を拾い上げたことがコンシードとなるか

質問 A はパットを入れて勝ったと勘違いして、B の球を拾い上げました。この場合、A は B の次のストロークをコンシードしたことになりますか？

回答 何も言わずに球を拾い上げたことはコンシードしたことにはならず、A は B の球を動かしたことに對し、1 打の罰を受けます。B はその球をリプレーしてプレーしなければなりません。

◇コンシードされたのにパットしてホールアウトする

質問 次のストロークをコンシードされましたが、パットしてホールアウトしました。この場合、罰を受けますか？

回答 コンシードは有効で、罰はありません。

◇コンシードを辞退してパットしたらパットが外れた

質問 プレーヤーAがBの次のストロークをコンシードしましたが、Bは「コンシードはいらないよ、パットしてホールアウトする」と言い、Aは「それならパットしていいよ」と言いました。Bはパットしたが外れてしまいました。この場合、の処置は？

回答 コンシードは辞退したり、取り下げたりすることはできません。したがって、Aのコンシードは有効で、Bがパットして外したことは関係ありません。

紛議とクレーム (規則 2-5)

マッチプレーは 1 ホールごとに勝ち負け(あるいはハーフ)を確定していくゲームですので、紛議が起きた場合もそのホールを終えるまでに解決しなければなりません。したがって、ストロークプレーの場合のように、2つの球をプレーしてスコアカードを提出する前に委員会に裁定を求める(規則 3-3)という処置をとることはできません。

そこで、マッチプレーでは「クレーム」という規則が規定されています。

マッチプレーで処置についての疑問や紛議がプレーヤー間に生じた場合、プレーヤーはクレームを出すことができます。

(1)クレームの要件

このクレームは相手に対して次の 3 つのことを告げなければなりません。次の 3 つのことを告げていなければ、委員会はそれをクレームとして取り上げることはしません。

- ① クレームを出すという本人の意思
- ② クレームに関連のある事実関係
- ③ 裁定を求めたいという本人の意思

例：「クレームを出します。今のあなたの処置は規則に違反している。この件について委員会に裁定を求めたい」

(2)クレームの時限

クレームは、そのマッチの当事者の 1 人が次のティーインググラウンドからプレーする前に(最終ホールではマッチの当事者全員がパッティンググリーンを離れる前に)出さなければなりません。

この時限を過ぎたクレームは委員会によって取り上げられることはありません。ただし、相手が誤報を与えていた場合については、時限後のクレームを取り上げる場合があります。

誤報を与える (規則 9-2)

相手に誤報を与えた場合、プレーヤーはそのホールの負けとなります。

「誤報を与える」とは次の場合を言います。

①罰を受けたことをできるだけ速やかに相手に告げなかった場合。

- 罰を伴う規則に基づいて処置をしていることが明らかで、相手がそれを見ていた場合は除きます。
- 相手が次のストロークを行う前に誤りを訂正したときを除きます。

②1 ホールのプレー中にそれまで要したストローク数について間違っただけの情報を与えた場合。

- 相手が次のストロークを行う前に誤りを訂正した場合を除きます。

③ホールで要したストローク数に間違っただけの情報を与え、そのためにそのホールの勝敗についての相手の理解に影響を与えた場合。

- その組の誰かが、次のティーインググラウンドからプレーする前に(最終ホールではマッチの当事者全員がパッティンググリーンを離れる前に)その誤りを訂正したときを除きます。

*罰を受けたことを知らなかったために罰を加えなかった場合も誤報を与えたこととなります。

事例

◇自分のキャディー(またはパートナー)が相手に間違っただけの情報を与える

質問 プレーヤー自身でなく、プレーヤーのキャディー(またはパートナー)がプレーヤーの打数について相手に間違っただけの情報を与えた場合、プレーヤーは規則 9-2 により罰を受けることとなりますか。

回答 相手が次のストロークを行う前に誤りが訂正されなければプレーヤーは罰を受けません。

◇打数についての任意の発言が、相手への誤報となる

質問 プレーヤーA と B のマッチプレーで、あるホールをプレー中に、A は実際にはすでに 4 打プレーしていたのに「もう 3 打もプレーしてしまった」と自分の方から B に話しかけ、B が次のストロークをプレーする前にその誤りを訂正しませんでした。この場合、A は規則 9-2 による罰を受けますか。

回答 プレーヤーA は罰を受けます。プレーヤーが間違っただけで、相手への誤りがあったのか、あるいはまたプレーヤーの任意の発言の中に誤りがあったのかは問題になりません。重要なことは、相手が次のストロークを行う前にそのような誤りを訂正しなければならないということです。

◇何打を要したか相手に伝えることを拒む

質問 マッチプレーで、B は A があるホールのプレー中あるいはあるホールを終了した後何打ストロークしたか尋ねましたが、A は要求されたその情報を B に与えることを拒みました。この場合、どのように裁定すべきですか。

回答 A は規則 9-2a の規定に従わなかったので一般の罰(規則 2-6)が適用となり、そのホールの負けとなります。罰はプレー中のホールに適用し、そのホールを終了していた場合には、最後にプレーしたホールに適用します。

◇間違っただけで、相手がボールマーカを拾い上げる

質問 規則 9-2 は、1 ホールのプレー中にプレーヤーが相手に間違っただけで、これを相手が次のストロークを行う前に訂正しなかった場合、プレーヤーはそのホールの負けとなる旨規定しています。あるホールのプレー中にプレーヤーが相手に間違っただけで、相手が自分の球の位置をマークしてあるコインを拾い上げる結果となりました。相手がコインを拾い上げたことは、相手が次のストロークを行ったことと同じと理解してよいでしょうか。

回答 同じです。したがって、質問のケースでは誤報を与えたプレーヤーはそのホールの負けとなります。

◇スコアについて誤報を与えられたため、ハーフとなるべき球を拾い上げる

質問 マッチプレーで、プレーヤーAが「4打でホールアウトした」と相手のプレーヤーBに告げたので、すでに4打をプレーしていたBはそのホールは自分の負けと思って球を拾い上げました。その直後、Aは自分のスコアは5打であったと気づき、すぐにそのことをBに告げました。この場合、どのように裁定すべきですか。

回答 プレーヤーAは打数について誤報を与えたので、規則9-2の原則に基づき当然そのホールの負けとなるべきところですが、Aは最悪でもハーフとなるスコアでホールアウトしているので、そのホールはハーフとなります(規則2-2参照)。

◇勝ちを得たホールのスコアが間違っていたことが、数ホールあとで分かる

質問 マッチプレーで、あるホールを終わったあとプレーヤーAが自分のスコアを5打と相手のプレーヤーBに間違えて報告した(実際は6打であった)ために、そのホールはハーフ(またはAの勝ち)となりました。Aは数ホールをプレーしたあとになって自分の誤りに気づきました。この場合、どのように裁定すべきですか。

回答 ハーフであったにしろプレーヤーAの勝ちであったにしろ、Aはそのホールの負けとなります。したがって、誤りが発見された時点でのマッチの状態を調整しなければなりません。

不適合クラブ、超過クラブを持ち運んだ場合の罰(規則 4-1、規則 4-4)

マッチプレーで、プレーヤーが不適合クラブを持ち運んだが、使用はしなかった場合、あるいは、15 本以上のクラブを持って正規のラウンドをプレーした場合の罰は次のとおりに規定されています。

規則 4-1, 規則 4-4 罰則

違反が発見されたホールを終えた時点でのマッチの状態を、違反があった各ホールについて 1 ホールずつ差し引いて調整する。ただし、差し引くのは 1 ラウンドにつき最高 2 ホールまで。

*この罰は反則のあった各ホールについて適用されるのではなく、反則が発見されたホールを終わった時点でのマッチの状態を調整することによって行われます。

事例

◇1 番ホールを終えた時点で 15 本のクラブを持っていることが分かった。

- ① B が 1 番ホールで勝っていたとき…マッチは 1 番を終えてオールスクウェアーとなる。
- ② 1 番ホールがハーフであったとき…A が 1 アップとなる。
- ③ A が 1 番ホールで勝っていたとき…A は 2 アップ

◇5 番ホールを終えた時点で 15 本のクラブを持っていることが分かった。

- ① B が 4 アップしていたとき…B の 2 アップとなる。
- ② B が 1 アップしていたとき…A の 1 アップとなる。
- ③ マッチがオールスクウェアーであったとき…A の 2 アップとなる。
- ④ A が 4 アップしていたとき…A の 6 アップとなる。

〈裁定 4-4a/9 参照〉

*不適合クラブは使用した場合には競技失格となります。

*いずれの場合も違反を発見次第、不使用宣言をしないと競技失格となります。

◇マッチの状態を調整する罰を適用する他の規則

キャディーの使用(規則 6-4)

ワンボール条件(競技の条件)

移動(競技の条件)

マッチプレーでのプレーの中断（規則 6-8a 例外）

規則 6-8a 例外

プレーヤー間の合意でマッチプレーを中断しても、そのために競技が遅れなければ、関係プレーヤーは競技失格とはならない。

例えば、「マッチを来週の日曜日の午後までに終わらせなければならない」という条件のもとでマッチプレーをした場合、その時限までにマッチを終わらせるのであれば、両者の合意のもと、今日は9ホールプレーし、残りは土曜日にプレーするという取り決めができます。

事例

◇降雨のため中断していたマッチの再開要求を拒否

質問 規則 6-8a の例外規定に従って、プレーヤーA と B は雨のためマッチを中断しました。しばらくして、雨はまだ降り続けていましたが、A がプレーの再開を希望したところ、B は(コースの状態がプレー不可能という理由ではなく)雨の中でプレーしたくないという理由でAの申し出を断りました。この場合、どのように裁定すべきか。

回答 プレーヤーBは競技失格となります(規則 6-8a)。
規則 6-8a は、例外として、マッチプレーの場合、双方の合意によりマッチプレーを中断することを認めています。しかしながら、プレーヤーAがプレーを再開したいと申し出た時点でもはや合意はなくなった訳であるので、Bはプレーの再開に応ずる義務があります。

ラウンド前やラウンド間の練習（規則 7-1）

規則 7-1a

マッチプレーの競技の行われる当日、プレーヤーはラウンド前に行われるコース上で練習することができる。

規則 7-1 注

委員会は、競技規定(規則 33-1)の中で、マッチプレー競技の行われる当日の、競技の行われるコースでの練習を禁止することができる。この場合の違反の罰は競技失格。

マッチプレーではラウンド前にコースで練習することが認められています。このラウンド前の練習を禁止するためには競技の条件でその旨を制定しておかなければなりません。

- * 日本アマ、日本女子アマでは当日のコースでの練習を禁止する競技の条件は採用していません。
- * マッチプレーの進出者を決めるストロークプレーの予選競技の場合はラウンド前やラウンド間にコース上で練習することはできないことに注意しなければなりません。

事例

◇予選ラウンドのあと、競技の行われているコース上で練習を行っていた競技者が同日に行われるプレーオフに引き続いて参加する

質問 マッチプレー競技の予選ラウンド(ストロークプレー形式)で、早くラウンドを済ませた競技者の 1 人が最終組の出たあとで、競技の行われているコース上で練習をしました。ところが、予選ラウンドが終わった後、その競技者はマッチプレー競技に進出できる最下位にタイで残りました。最下位のタイは直ちにホール・バイ・ホールのプレーオフを行い順位を決定することになっていましたが、当該競技者は規則 7-1b に基づきプレーオフに競技失格となりますか。また、競技失格となる場合、委員会が規則 33-7 を援用してその競技失格の罰を免除しても妥当な措置といえますか。

回答 その競技者は競技失格となります。質問のようなケースでは、競技失格の罰の免除をする正当な理由はありません。

ラウンド中の練習（規則 7-2）

規則 7-2(抜粋)

ホールの結果は決定しているのにそのホールのプレーを続けても、そのストロークは練習ストロークではない。

マッチプレーでは、ホールを終える前にそのホールの結果が決定する場合があります(コンシードなど)。そのような場合、そのホールをホールアウトするためにプレーを続けても練習ストロークにはなりません。

事例

◇結果決定後にプレーを続けても練習ストロークとはならない

質問 プレーヤーA と B のマッチで、A が 4 打でホールアウトしたとき、B の球は 4 打を終えてまだバンカー内にあり、そのホールの勝敗はついていました。この場合、B がバンカーからプレーしたらそのストロークは練習ストロークとなりますか。

回答 練習ストロークとはなりません。ホールの勝敗がついていても、そのホールで引き続きプレーしたストロークは練習ストロークではありません(規則 7-2 参照)。

◇「そのホールのプレーを続けた」の解釈

質問 規則 7-2 は、ホールの勝敗やホールの成績は決定をみているのになお「そのホールのプレーを続けた場合」、引き続いてプレーしたそのストロークは練習ストロークではないと規定していますが、「そのホールのプレーを続けた場合」とはどのような場合をいうのですか。

回答 一般的には、プレーヤーがインプレーの自分の球をそのまま打って行ってホールアウトしたような場合のことを言いますが、「そのホールのプレーを続ける」という点については、これを「ゴルフ規則に従ったやり方で」プレーを続けなければならないものというように狭義に解釈して考える必要は必ずしもありません。もっと広義に解釈して、例えば、アウトオブバウンズや紛失球のケースで、規則に違反して、初めの球がアウトオブバウンズへと飛び込んで行った地点の近くに別の球をドロップしてプレーしたり、初めの球を紛失したと思われる付近に別の球をドロップしてプレーを続けたような場合でも、引き続いてプレーしたそのストロークは練習ストロークではないと解釈されます。

プレーの順番（規則 10）

規則 10-1a 1 ホールのプレーのスタート時

最初のティーインググラウンドでオナーのサイドは、組み合わせ表の順番による。組み合わせ表のないときは、オナーはくじ引きなどで決めるべきである。

ホールの勝ちを得たサイドは次のティーインググラウンドでオナーであり、ハーフであった場合は前のティーインググラウンドでオナーであったサイドが続けてオナーである。

*日本アマ、女子アマでは1番ホールのスタートは1回戦だけが組み合わせ、2回戦以後はクジで決めます。

◇紛議持ち越しの場合の、次のホールのオナーの決め方

質問 プレーヤーA と B のマッチプレーで紛議を生じ A がクレームを申し立てたため、両人はマッチは継続してあとで委員会の裁定を求めました。この場合、次のホールではどちらがオナーとなりますか。

回答 公正の理念(規則 1-4)に従って、くじでオナーを決めるべきです。ただし、プレーヤーA のクレームがそのホールのハーフを主張するものであった場合は、前のホールでプレーヤーB がオナーなら B が引き続きオナーとなります。

規則 10-1b 1 ホールのプレー中

プレーヤーの双方がそのホールのプレーを始めたら、以後ホールから遠い球が先にプレーされる。複数の球がホールから同じ距離にあるときや、ホールとの位置関係が決めにくいときは、先にプレーする球をくじ引きなどで決めるべきである。

◇2人とも救済を受けるときの打順

質問 プレーヤーA と B が同じ修理地内に球を打ち込み、18 インチ離れていて A の球の方がホールから遠かった。両プレーヤーとも救済を受けることに決めましたが、次のショットの打順は救済を受ける前の球の位置関係によって決めるのか、それとも救済を受けたあとの球の位置関係で決めるのでしょうか。

回答 プレーの順番は救済を受ける前の球の位置関係によって決められます。したがって、プレーヤーAがプレーヤーBより先にプレーすべきです(規則 10-1b 注と規則 10-2b 注参照)。

規則 10-1c 違った順番でプレーした場合

相手が先にプレーすべきであったのにプレーヤーがプレーしても罰はないが、相手はすぐにそのプレーヤーに対して、そのストロークを取り消して、正しい順番で、初めの球を最後にプレーした所のできるだけ近くで球をプレーするよう、要求することができる(規則 20-5 参照)

マッチプレーでは相手が違った順番でプレーした場合、罰なしに相手に正しい順番でプレーをやり直すよう要求することができます。また、違った順番でのストロークをそのまま認めることもできます。

事例

◇プレーの順番を間違えた相手に再プレーするように要求したが、自分がプレーしたあとで撤回

質問 プレーヤーAとBのマッチプレーで、Aが順番を間違えてティーショットしたので、Bはその球を放棄して正しい順番でプレーするようにAに求めましたが、自分がプレーしたあとに「別の球をわざわざプレーしなくてもよい」とAに告げました。この場合、どのように裁定すべきですか。

回答 プレーヤーAは初めの球でプレーを続けよというプレーヤーBの指示に従う義務はありませんが、そのような指示を与えたBにも罰はありません。Aが初めの球でプレーを続けようと別の球で正しい順番でプレーしようと(この場合、それはAの権利である)、そのホールでの勝敗はプレーどおりです。

ティーインググラウンドの外からプレー (規則 11-4)

規則 11-4a

1 ホールのスタートでプレーヤーがティーインググラウンドの外からプレーした場合、相手はすぐにプレーヤーに対し、そのストロークを取り消してティーインググラウンド内から改めて球を罰なしに再プレーするよう要求することができる。

◇相手が再プレーを要求したときの順番

質問 マッチプレーで、オナーのプレーヤーがティー区域外からプレーしました。相手はすぐに規則 11-4a にしたがってそのストロークを取り消すようにプレーヤーに求めました。プレーヤーはまだオナーですか。

回答 オナーです。プレーヤーのティーからの次のストロークは規則 10-3 でいう 2 つ目の球とはみなされません。

◇ティー区域外からプレーした球がアウトオブバウンズとなったが、打ち直しを求められなかった場合

質問 プレーヤーA と B のマッチプレーで、A が間違っただティーインググラウンドから打った球がアウトオブバウンズとなりましたが、B はそのストロークの再プレーを要求しませんでした。この場合、どのように裁定すべきですか。

回答 プレーヤーA の間違っただティーインググラウンドからのプレーについて、プレーヤーB は A に対しそのストロークを取り消して改めて球を正しいティーインググラウンドの内から再プレーするよう要求しなかったため、A の球はインプレーとなります(定義 7 「インプレーの球」参照)。したがって、規則 27-1 により、A は 1 罰打を加えた上、初めの球をプレーした所にできるだけ近い地点(すなわち、間違えたそのティーインググラウンドの上)に別の球をドロップしなければなりません。また、A は初めの球を正しいティーインググラウンドからプレーしなかったため、別の球をティーアップすることはできません(規則 20-5)。

誤球のプレー (規則 15-3)

規則 15-3a

プレーヤーが誤球に対してストロークをした場合、プレーヤーはそのホールの負けとなる。

誤球が他のプレーヤーの球であった場合、その球の持主は誤球のプレーが最初に起きた箇所に球をプレースしなければならない。

プレーヤーと相手が1ホールのプレー中に互いに球を間違えてプレーした場合は、誤球に対して先にストロークをした方がそのホールの負けとなる。プレーの前後が分からないときは、球を間違えたままでそのホールを終えなければならない。

* 誤球をプレーした場合は、そのホールの負け。

* 互いに相手の球をプレーしてしまった場合は、先にプレーしたプレーヤーがそのホールの負け。

* 互いに相手の球をプレーしてしまった場合で、どちらが先にプレーしたか分からない場合は、間違えたままでホールアウトしなければならない。

事例

◇ホールをコンシードしたあとで、相手に誤球のプレーがあったことが分かる

質問 プレーヤーAとBのマッチプレーで、Aがラフからの第2打でパッティンググリーンにのせたので、すでに5打をプレーしていたBはそのホールをコンシードしました。ところがその直後に、Aは自分が誤球をプレーしていたことを発見しました。この場合、どのように裁定すべきですか。

回答 BがAにコンシードする前にAはすでにそのホールの負けとなっていた(規則 15-3a)ので、Bがホールをコンシードしたことは問題となりません。

◇ホールの勝ちを得たがプレーヤーに誤球のプレーがあったことが次のホールで分かり、相手は前のホールの勝ちを主張

質問 マッチプレーの 5 番ホールをプレーヤーA は 3 打、相手のプレーヤーB は 4 打でホールアウトしました。次のホールのティーインググラウンドからティーショットしたあとになって、A が 5 番ホールで誤球をプレーしていたことが分かり、B は 5 番ホールの勝ちを主張しました。この場合、どのように裁定すべきですか。

回答 プレーヤーA は誤球のプレーにより罰を受けていたことをプレーヤーB にできるだけ速やかに報告しなかったので、たとえ罰を受けていたことに気付かなかつたとしても誤報を与えたものとみなされます(規則 9-2)。したがって、B のクレームはクレーム時限を過ぎてはいるが有効であり(規則 2-5)、委員会は 5 番ホールは B の勝ちと裁定すべきです。

相手やそのキャディーが球を動かす (規則 18-3)

規則 18-3a 捜索中

プレーヤーの球を探しているときに、相手またはそのキャディーや携帯品がその球を動かしたり、球に触れたり、または球の動く原因となっても罰はない。球が動かされたときは、その球はリプレースされなければならない。

規則 18-3b 捜索中以外の場合

プレーヤーの球を探しているとき以外の場合に、相手またはそのキャディーや携帯品が、規則に別の規定がある場合を除いて、プレーヤーの球を動かしたり、球に故意に触れたり、または球の動く原因となったときは、相手は 1 打の罰を受ける。球が動かされたときは、その球はリプレースされなければならない。

球を捜索中に相手やそのキャディーが球を動かしても罰はありませんが、球を捜索している以外の場合に、相手やそのキャディーが球を動かした場合には、その相手に 1 打の罰が課せられます。

事例

◇相手のキャディーが、偶々プレーヤーの球を踏みつけ、動かす

質問 相手のキャディーが偶々プレーヤーの球を踏みつけて動かしました。この場合、どのように裁定すべきですか。

回答 相手のキャディーが球探しをしていた場合(その場合には、罰はない規則 18-3a)を除き、相手は 1 打の罰を受けます(規則 18-3b)。

ストロークした球が相手サイドに当たる (規則 19-3)

規則 19-3(抜粋)

プレーヤーの球が相手またはそのキャディーや携帯品によって偶然に方向を変えられたり止められても、誰にも罰はない。プレーヤーはどちらかのサイドが次のストロークをする前にそのストロークを取り消した上、初めの球が最後にプレーされた所のできるだけ近くで、球を罰なしにプレーするか(規則 20-5 参照)、またはその球をあるがままの状態プレーすることができる。

球が相手サイドのものに当たった場合、プレーヤーの選択により罰なしに再プレーをすることができます。

ストロークした球が止まっている他の球に当たる (規則 19-5a)

規則 19-5a(抜粋)

ストロークされて動いているプレーヤーの球が、インプレーの止まっている他の球に当たって方向を変えられたり止められた場合、プレーヤーは自分の球をあるがままの状態プレーしなければならない。マッチプレーでは、誰にも罰はない。

マッチプレーではストロークする前に両方の球がパッティンググリーン上にある場合に球が当たっても罰はありません。

(ストロークプレーの場合は 2 打の罰を受ける)

誤所からのプレー (規則 20-7b)

規則 20-7b

誤所からのストロークを行った場合、プレーヤーはそのホールの負けとなる。

ストロークプレーの場合と違い、重大な違反があるかどうかにかかわらず、誤所からプレーした時点でそのホールの負けとなります。

紛議と裁定 (規則 34)

規則 34-1

規則 2-5 に基づいてクレームが出された場合、**委員会**は、必要であればマッチの状態を調整できるように、できるだけ早く裁定を下すべきである。
そのクレームが規則 2-5 に従ってなされたものでない場合、**委員会**はそれを受理してはならない。
規則 1-3 の違反に対する競技失格の罰の適用については、時限はない。

事例

◇予選ラウンドのスコア誤記がマッチプレーの始まったあとで発覚

質問 マッチプレー競技への進出者を決めるストロークプレーでの予選ラウンドの終了時に、プレーヤーがあるホールで反則を犯したことを知っていたながら、うっかりしてそのホールのスコアに罰を加えませんでした。そのことがプレーヤーがマッチプレーに進んだ段階で発見された場合、どのようにすべきですか。

回答 プレーヤーは競技失格とすべきです。規則 34-1b に基づき、規則 6-6d 違反の罰は予選ラウンド終了後でも適用となります。

◇マッチプレーに進んでいたプレーヤーに予選ラウンドでスコア誤記があり、競技失格となった場合の善後措置

質問 マッチプレー競技の第 4 ラウンドに進んだプレーヤー A が予選ラウンドで誤って実際のスコアよりも少ないスコアを提出していたことが発見されました。委員会は直ちに A を競技失格としましたが、それまでのラウンドで A に負かされたプレーヤーについてはどのように対応するのが適切な処置といえますか。

回答 委員会は、公正の理念(規則 1-4)に従って、善後策を講じなければなりません。考えられる対策は次のどれかでしょう。

(a) その競技を取り消す。

(b) 競技失格の罰が発見された時点で、プレーヤー A を競技失格とする。
したがって、A の次の相手を不戦勝とする。

(c) A により最後に負かされたプレーヤーを復活させる。

(d) A により負かされたすべてのプレーヤーに、正しい組み合わせにより、夫々のマッチをやり直させる。

2008年8月12日
(財)日本ゴルフ協会規則委員会作成